

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810番地の24		
自己評価作成日	平成24年5月20日	評価結果市町村受理日	平成24年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572100677&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年6月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境のなかで、四季折々の草花や野菜作りをすることによって昔を思い出し、意欲の向上につなげている。また、地域に出かける機会を多く持ち、地域とのつながりを感じられるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、ホームの理念に基づき、外出を楽しみ希望する利用者が多ければ、積極的に外出を支援したり、食べたい物を献立に取り入れたり、常に利用者主体の支援に努めている。地域密着型サービスの意義をふまえ、町のフェスティバルへの参加や、地域の高齢者クラブとの交流を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後のミーティング等で話し合うことで、職員が共通した意識をもって実践に取り組んでいる。		管理者と職員は、理念にブレがないか、朝礼後のミーティングで確認および共有しながら、理想とするホームづくりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での買物やフェスティバルへの作品の出品、見学などにより、地域の方との交流を図っている。		若いころから買い物をした百貨店は、今も地域の人達のコミュニケーションの場であり、外出時には立ち寄っている。町のフェスティバルでは、ホームの出展コーナーがあり、習字や小物などを展示して、ホームの紹介やふれあいの場にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブや民生委員の方の訪問を通して、認知症の人の理解をいただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動や行事への参加の様子や研修、訓練などの報告をし、委員の方からの意見を伺い、参考にしたりして改善につなげている。		ホームの活動や行事計画を報告し、委員の意見を運営に生かしている。本年度は、委員の提案で、他施設の収穫祭へ参加し、外出の機会を増やすことになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議のなかで色々な情報を頂いたり、報告することで、地域の行事に参加出来るような協力を得ている。		市の担当課は、ホームが目指す地域密着型サービスの実現に向け、地域の情報を提供したり、参加できるよう支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や資料などで認識を深め、周知徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関も常に開放し、出入り自由となっている。		日曜日に研修を計画し、今年度も全職員が参加し、既に実施している。職員は、拘束について理解しており、拘束は行われていない。また、拘束を行わないためにはどうすればいいかを考え、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、職員も意識を持ってケアに当たっている。なお一層の知識を深める必要がある。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用があり、内部研修などから、知識を深めるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明を行い、また、改定の際にも説明し、同意を得ており、不安に思った事や疑問点がないか伺っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、家族からの意見や要望などを伺っている。ご本人の要望なども伺い、行事や活動に生かしている。		職員は、利用者の表情や動作、言葉から把握するよう努めている。家族には、「ホームだより」で生活状況を知らせ、来訪時や家族総会時に、家族同士の話し合いを通して、意見が出しやすい状況に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングのなかで出された意見などをその中で話し合うことで、共通した情報を持って取り組むことが出来ていると感じている。		職員間で、支援やバイタルチェック等のケアのむらを最小限にするなど、ミーティングで出された意見を日々のケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりをよく把握し、その人に応じた助言をされている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修を行っており、外部研修の際には、職員会議やミーティングの時に報告している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際には、他事業所の職員との情報や意見交換している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけを多くし、ご本人が思っていることを話しやすいような環境を作る。じっくり話をきくことで、不安を和らげるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や家族会等で要望をお聞きし、その人に必要なサービスに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に必要なサービスを提供できるよう、職員間で話をしている。家族からもお話を伺うようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配・下膳や、洗濯物たたみ、掃除など、役割を感じられるよう、支援している。わからない事を教えて頂いたりする事もある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子などを家族に報告し、職員だけでは対応が困難な場合は、家族に協力をお願いして、落ち着かれることもある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月のドライブや買い物を通して、地域のお店に出かけ、関わりを継続するようにしている。また、個人の行きたい所に出かける機会もある。	個々の条件に対応した、なじみの継続のための外出を家族にも協力依頼をしている。困難な利用者には、「利用者だけの特別な日」を設け、ニーズを満たすよう取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりを把握し、行事や活動などを通じて、利用者同士が円滑な人間関係を築けるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば関わりを持つようになっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、利用者の希望、意向を伺っている。また、毎月ケース検討会を行って、意見の交換をしている。		記録様式を変更し、初回時のアセスメントに重点を置いている。ケース検討会で、職員は情報を共有するとともに、家族から昔の好みや生活習慣を把握し、本人の気持ちを理解しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を伺い、今までの生活に近いものが継続できるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に記録し、状態の把握に努めている。より明確な記録ができるよう研修を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い、本人や家族の意向などを伺っており、必要があればアセスメントを行い、計画につなげている。		来訪や電話による家族の意向、職員の意見、介護記録などを介護計画の作成に反映させている。計画を家族に説明し、目標達成に向けて毎月、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を行い、体調の変化を見逃さないよう職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要があれば、併設施設の看護師が対応する体制がある。習字教室や大型車を借りてみんなで出かけたり、合同の行事の開催など、併設施設との関わりが多い。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害の発生に備え、地区の消防団の協力体制や地域の美容院から来ていただいたりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所面接時に協力医の説明を行い、家族の同意を得て、往診を受けている。体調の変化に応じて、早目に家族や医療機関と連携を図っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	資格を持った職員が対応。また、併設施設の看護職の協力体制がある。介護職は常に状態を観察し、変化が見られた場合は、医療機関との連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時や急変時など、協力医に相談しており、情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアのあり方についての研修を行うことで、職員への意識付けを行い、協力医に相談や報告を行い、連携を図っている。原則的に家族の付き添いをお願いする。		急変時の夜間受診や入院が必要な時は、協力医が受け入れ先を依頼しているが、ホームにおいてのターミナルや看取り体制はできていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施している。昼間や夜間、土砂災害など、それぞれ状況を想定し、避難訓練を行っている。地区の消防団も訓練に参加していただくなど、協力体制もある。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	色々な場面での人格を尊重した声かけなどに配慮している。個人情報に関しても、同意書をとっており、守秘義務の徹底を図っている。		家族的で親しい仲にも、丁寧で誇りを傷つけない言動で接している。居室ごとにトイレがあり、誘導にはプライドを損なわない言葉かけや移動がさりげなく行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞きながら生活していただいている。小さなことでもご本人が意思決定できるよう、声かけに配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に応じてケアを行い、家事の手伝いなども無理強いないように、ご本人のペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、2ヶ月に1度、本人の希望を聞きながら行っている。更衣のときには声かけして、なるべく自分の気に入ったものを着ていただくようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てるときには、好みのものを聞いたり、地域のお店に新鮮な食材を買いに一緒に出かけたりしている。味付けをする際には、味見をしていただいたりして、食べることに楽しみが持てるよう配慮している。		献立は、利用者の好みや旬の食材を取り入れている。月2回は自家製パンを焼くので、力量に応じて職員とともに参加し、毎日の利用者による食事前・後あいさつ当番を含め、食事を楽しんでいる。食欲ペースに応じ、無理強いせず、捕食をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の時間を決めて飲んで頂いているが、他にも自由に飲めるよう準備している。食事の量なども記録し、把握に努め、体重測定を行い、体重の増減に気をつけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のハミガキ誘導をしており、義歯を装着していない方もブラシなどを用い、清潔に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て誘導しているが、訴えのある場合や、体動が見られるなどのサインを見逃さないようにし、個々に合わせ排泄介助を行っている。		利用者の約半数は排せつ介助が必要であり、各居室のトイレまで入室する個々の身体状態と、排せつパターンを考慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材を使ったり、牛乳を毎日摂取していただいている。毎朝の腹部マッサージも合わせて行っている。スムーズな排便のために、医師より指示のある方は下剤も服用し、便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人に時間や好みの温度を伺い、入浴していただいている。自分で洗えるところはしていただくようにしているが、無理強いをしないように配慮している。菖蒲湯やゆず湯など、季節も楽しんで頂いている。		浴槽は左右から介助できるよう中央に設置し、利用者は個々の洗身介護（自立、一部介助、全介助）を受けながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く休む方、遅くまでテレビを見られる方等、それぞれ自由に休んで頂いている。夜間不安になる方には、ゆっくり会話することで落ち着かされている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量は、お薬手帳で確認を行っている。服薬の際は、確実に飲んで頂けるよう、声だし確認をしている。薬について疑問な点がある場合には、医療機関に確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が感じられるよう、日々の家事の手伝いでテーブル拭き、洗濯物干しやたたみなどをしていただいている。昔していた編み物など、楽しめる方もいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、ドライブや地域のお店にも出かけ、地域の人との交流にもなっている。外食や遠足などの機会もある。		毎月10日以上のお外出が計画され、なじみの百貨店で買い物したり、四季折々の観光や外食、自宅近辺をドライブするなど、利用者の希望を取り入れた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行かれた時は、その人の能力に応じ、本人に払って頂くようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話のあった場合は取り次ぎ、自由にお話してもらっている。本人の書いた手紙など、園の便りと一緒に送っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂、居室に季節のお花を飾ったり、壁飾りを作製して、季節を感じてもらえるよう配慮している。ベランダに出ると、川を眺めることができ、外気浴などで楽しんで頂いている。		リビングは大きなソファを置かず、座り心地が良くゆったりとしたイスを食事や団らんに使用するので、一層広々とし、採光や風通しが良い。デッキや中庭に出て、外気浴や花壇を楽しむことができる。運営者の花を絶やさない思いが強く、ホームのいたる箇所に花があり、和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に畳のスペースやホールに椅子やテーブルを置き、自由に過ごして頂いている。利用者さんがほかの利用者の方の部屋に行かれ、会話することもある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙を飾られたり、ご本人の慣れ親しんだものを置かれ、落ち着いて過ごせるよう配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋に手すり付きのトイレ、浴室にも手すりをつけている。洗面所は車椅子でも使い易いタイプのものとなっている。			